

YMCA News

5



「斜め上の存在」

YMCA を卒業してから4年が経ち、社会人4年目の春を迎えました。現在は保育者として働いていますが、YMCA で過ごした日々は今でも心の中で輝き続けています。さまざまな価値観を持つ人たちとの出会いを通して、自分の視野が大きく広がるという、かけがえのない経験を得ることができました。

ある先輩リーダーから「リーダーは子どもたちにとって「斜め上」の存在なんだよ」と教えていただいたことがありました。その言葉はとても印象深く、今でも私の心に残っています。当時は「斜め上の存在ってどういうことだろう?」と疑問に思っていたのですが、経験を重ねるうちに少しずつその意味が分かるようになってきました。

初めての活動では、グループをまとめることに精一杯で、自分から遊びを提案しても「やりたくない!」と否定されてしまい、落ち込んだこともありましたが、活動を重ねる中で、子どもたちの興味に目を向け、次の活動の準備や声かけを工夫するようになりました。また、活動中は子どもたちの目線に立ち、ともに遊ぶことで距離が縮まり、信頼関係も育まれていきました。

私は、リーダーとは先生や指導者ではなく、子どもと同じ目線に立ち、ともに楽しみ、成長しながら寄り添う存在であると感じています。そして、子どもたちにとって「安心できる存在」でありたいと強く思うようになりました。

この学びは、保育者となった今でも私の中に生き続けています。日々の保育の中では、「先生」としてどう振舞うかを意識するあまり、叱ったり、正しい方向へ導こうとする気持ちが強くなることがあります。それが必要な場面もちろんありますが、そうした関わり方ばかりでは、「先生=怖い人」と思われてしまうこともあると感じます。

社会人になってから、「今の私は理想の保育者になれているのだろうか」と悩んだり、葛藤したりすることもあります。そんな時、YMCA での自分を思い出します。そこには、子どもたちとともに楽しんでいる私の姿があります。その姿を思い出すことで、「ここが私の原点だったのだ」と再確認することができます。

もちろん、リーダーとしての役割と保育者としての役割には違いがあり、理想と現実の狭間で揺れることもあります。それでも、その原点があるからこそ、一度立ち止まり、子どもたちの気持ちに寄り添い、信頼関係を築くことができているのだと感じています。これからも「先生」でありながら、「斜め上の存在」でもありたいと思っています。

そして幸せなことに、卒業した今でも YMCA の仲間たちとの繋がりがあります。それが、とちぎ YMCA の OBOG 会『きらり』の存在です。『きらり』は、リーダー時代の経験を活かし、ユースリーダーの支援や地域への貢献を目指して活動しています。

学生時代は、同じコミュニティの中にいる仲間と対話を重ねながら、時間をかけて活動することができました。一方で、現在はそれぞれが社会人となり異なる環境にいるため、時間や関わり方も限られています。それでも、お互いの得意なことを持ち寄って力を合わせることで、濃い時間を過ごすことができている。また、普段は異なるコミュニティにいる仲間が集まることにより、自分の視野もさらに広がっていきます。これらの経験は、私にとって大きな支えであり、大切な財産です。

『きらり』は、学生時代の「私」に戻ることができる、特別な居場所です。今ある環境に感謝しながら、これからも YMCA の活動に関わり続けていきたいと思っています。

とちぎ YMCA ユースボランティアリーダー OG
岸 明莉 (きっちゃんリーダー)

とちぎYMCAの使命。 ~みつかる。つながる。よくなっていく。~

2025 年度とちぎYMCA年間聖句

《善きサマリア人》の喩え

新約聖書 ルカによる福音書 第10章 25節～37節



認定こども園 さくらんぼ幼稚園

「入園式の様子」

4月12日、67名の園児が参加して2025年度の入園式が行われました。今年は園庭の桜がきれいに咲いている中での入園式となりました。



担任の先生から名前を呼ばれると、元気一杯返事をする子。まだまだ恥ずかしくてお母さんの膝に顔をうずめてしまう子。様々な反応が可愛らしくて笑顔に包まれた入園式になりました。園生活に慣れてくればみんな元気な声でお返事ができ、元気な声で「せんせい!」と呼んでくれるでしょう。その日を楽しみにしています。



本澤 利香

ようとう保育園

「さくら組(年長児)懇談会」

新年度が始まり、不安そうな姿はなく、子どもたちは最年長児になったことを喜び、毎日張り切って過ごすなか、生活の流れも把握し一つひとつ丁寧に取り組んでいるさくら組です。

4月2日に行われた保護者懇談会では、昨年度に引き続きドッジボールやしっぽ取りなどの集団あそびも好み「先生ドッジボールしよう」「しっぽ取りやりたい」など毎日体を動かすことを楽しんでいる姿や、ボールの取り合いになっても「じゃんけんで決めよう」など自分たちで解決しようとする頼もしい姿、ドッジボールをしている際、小さな子が入ってきてしまうと優しくコート外に誘導してあげたり、



慣れない環境で泣いている子の涙を拭いてあげたりと最年長児の自覚が芽生えている様子などをお伝えしました。

保護者の方からは自己紹介を兼ねてお子さんの良いところや自慢、興味のあることなどをお話し頂き、「絵本が好きで週末は図書館に本を借りに行っています。」「歯が抜けました。」「家族に優しくしてくれます。」などご家庭での様子を知ることができました。

これからの1年、就学に向けて生活のリズムを整え、育てて欲しい10の姿を育むことができるようサポートしていきながら、お子さんたちが興味を持っていることを共通理解し、これからの園生活をととして保護者の皆さまやお子さんたちと信頼関係を深めていきたいと思います。引き続きご理解ご協力お願いいたします。

さくら組担任 石塚 亜紀・和田 有加里



子どもの家だより

～清原中央子どもの家 フレンドクラブ～

「新年度がスタートしました!」

今年度は新たに30名の新1年生を迎え、にぎやかにスタートしました。初日は少し緊張した面持ちの1年生たちでしたが、進級した上級生たちが案内係や遊び係としてやさしく迎え入れてくれました。「こっちだよ～」と手を引く姿や声かけをする様子から、子どもたちの確かな成長を感じることができ、あらためてこの仕事のやりがいを実感しました。

春休みの前半は、おなじみのプラバンやアイロンビーズにじっくり取り組む子の姿があり、講師の先生をお招きしたリズム体操も初めての体験に目を輝かせて楽しんでいました。また、宮島醤油さんのご厚意により提供いただいた「ハヤシビーフランチ」は大好評で、なんと3杯おかわりした子もいたほどです!

後半からは新1年生も加わり、縦割り班での自己紹介やクラス活動、コースターづくりなどを通して交流を深めました。日に日に人数も増え、ますますにぎやかになる中で、けがや事故のない安全な環境づくりを心がけながら、子どもたち一人ひとりが元気に、そして楽しく過ごせるよう、支援員一同気持ちをひとつにして取り組んでまいります。



清原中央子どもの家フレンドクラブ 主任支援員 坂本 由美



ひがしやまアトムクラブ

「芽吹きの5月」

寒暖差の大きかった日々も過ぎ、ようやく初夏の訪れを感じる季節となりました。

アトムクラブでは、6年生の卒業と新1年生の入所があり、寂しさワクワク・ドキドキが入り混じる春のスタートとなりました。卒業を迎えた6年生を送り出す会では、一緒に過ごした日々を思い出し、思わず涙ぐむ姿も見られました。また、4月1日には新しい1年生を迎え、「どんなお友だちと仲良くなれるかな?」と期待に胸をふくらませる子どもたちの姿も印象的でした。

日々の生活は慌ただしく過ぎていきましたが、今では少しずつ新しい環境にも慣れ、子どもたちの笑い声が響く、いつもの賑やかなアトムクラブに戻ってきました。

今年も2年生は、低学年の部屋から中・高学年の部屋へと移動しました。スタッフとしては「もう少し低学年でも...」と見守る気持ちもありましたが、子どもたちは遅く、2つの部屋を自由に行き来しながら、新たな環境を楽しんでいる様子です。

また、今年度は例年になく6年生の利用児童が多く、保護者の方々からのニーズだけでなく、子どもたち自身が「居場所」としてアトムクラブを必要としてくれていると感じています。日々リラックスした様子で会話を楽しんだり、遊びに誘い合ったりする姿が日常となり、時には落ち込んだ友だちにそっと寄り添い、楽しい方向へと導く姿も見られ、心が温かくなる思いです。

これからも、子どもたちが安心して過ごせる場所として、互いに支え合いながら、笑顔あふれる日々を積み重ねていきたいと思います。また、卒業した6年生たちが、中学校でも元気に充実した毎日を送ってくれることを心より願っています。



田代 みつ子

宇都宮市青少年活動センター(トライ東)

「ユーススタッフによる施設紹介 ～音楽室～」

トライ東には、『ユーススタッフ』と呼ばれる大学生のアルバイトスタッフがいます。受付や電話対応などの通常業務の他に、中高生を始め、青少年の皆さんに親しみをもっていただけるようにInstagram・YouTubeなどのSNSでの発信やロビーの運営に取り組んでいます。

今回は、ユーススタッフによる施設紹介です!



「音楽室」は、ピアノ演奏をはじめ、歌唱、ドラムセットを使ったバンド練習など多目的に使うことが出来るお部屋です。防音室でもあるので、普段ご自宅で大きな音を出して練習することが難しいという方に非常に適しています。

今回は、私が所属している「宇都宮大学混声合唱団」のメンバーが練習している様子をお見せいたします。このようにメンバーと音楽的な細かい分析を行なっています。

プロの指揮者とともに定期演奏会なども自主開催しており、勢力的に活動しています。



宇都宮大学4年 小林 慎 (まこちゃんーリーダー)

◀トライ東公式 Instagram
施設の紹介や、イベント情報も◎



スプリングプログラムありがとうございました。

とちぎYMCA ではこの春、子どもたちの全人的成長を願い、スプリングプログラムを実施いたしました!どのプログラムでも「体験のその先にある成長」をテーマとしました。子どもたち一人ひとりがグループのメンバーやリーダーと関わる体験をしたことで、「協力する」ことの楽しさや大切さ、「人とのつながり」を持てる嬉しさ、仲間どうし「互いを認め合う」ことの大切さを心で感じる事ができた活動となっていたら幸いです。

磐梯シュプールスキーキャンプ

2泊3日のキャンプを通して、磐梯山でスキーを楽しんでまいりました。今回のキャンプのテーマである「ばんだい de ばんざい」。スキープログラムを通して、隣にいる仲間やリーダーと心から「ばんざい!」と喜びを分かち合いたいと思い、プログラムを進めてまいりました。

今回のスキーキャンプでは、技術の向上だけでなく、非日常の空間に身を置き自然体験を味わうことや、グループの仲間と協力しながら様々な価値観に触れることも大切にしています。



新1年生チャレンジキャンプ

小学校に上がる前の最後の春休み。新1年生になる子どもたちは親元を離れてのキャンプにチャレンジしました。布団を敷いたり片付けたり、自分で服を着替えたり、荷物を整理したり...。キャンプ生活の中にある「当たり前」も初挑戦の子どもたちにとっては大きなチャレンジとなったと思います。

新1年生になる子どもたちみんな、たくましく、頼もしくなったと思います。小学校でもたくさんチャレンジをして、キラキラ輝くことを楽しみにしています!

第5回とちぎYMCA サッカー大会

がむしゃらにボールを追いかけて、仲間と協力してゴールを目指しました。ゴールを決めたらみんなで喜び、ゴール決められたら悔しがり、たくさんの気持ちをチームメイトやリーダーと共有していました。

次のサッカーフェスティバルは6月22日(日)を予定しています。夏もまた、みんなでサッカーしましょう!



夏休みのサマープログラムは6月から申込み開始予定です。
今後もとちぎYMCA シーズンプログラムをよろしくお願いいたします!

国際協力募金 2024 ご報告

2024 年度も国際協力募金へご協力いただきまして誠にありがとうございました。たくさんの方にご支援いただき、総額 476,896 円(*ウクライナ支援指定募金含む)が集まりました。

12 月~ 3 月に行いました国際協力募金強化期間のクリスマス・お年玉募金ではお子様から成人の方までたくさんの方から応援メッセージもいただきました。皆様からいただいた温かいお気持ちは、とちぎYMCA と長年交流のあるフィリピン ナボタス タラの学生への奨学金をはじめ、下記の支援に使用させていただきました。

【使途内訳】

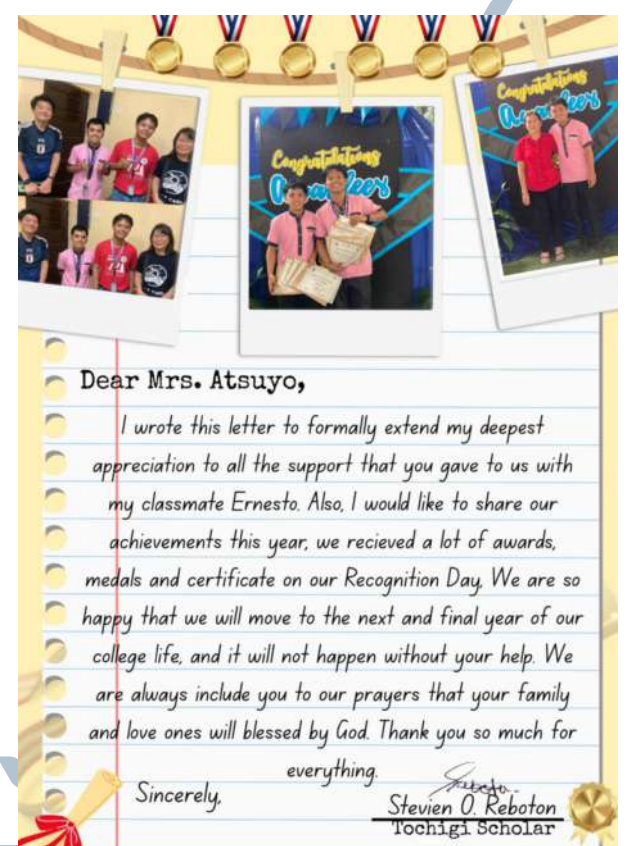
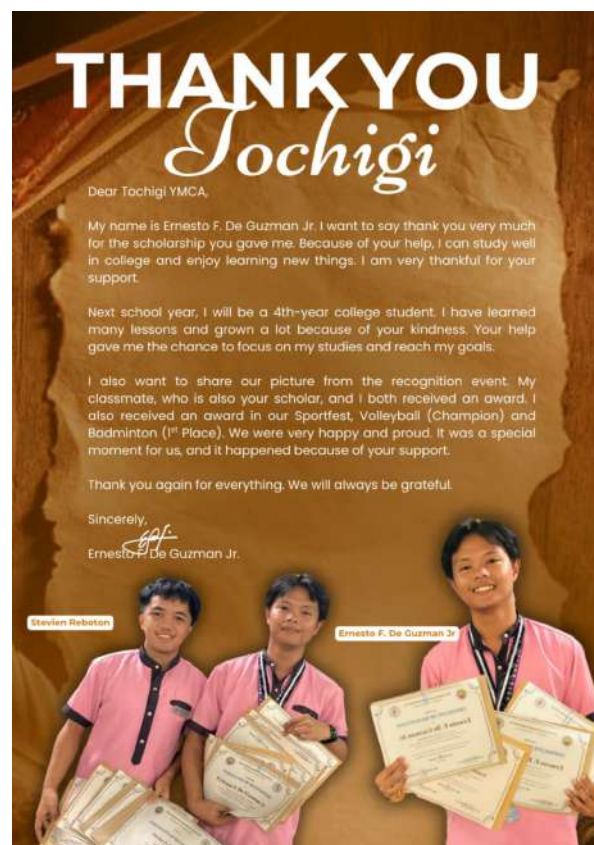
- フィリピン HRCF (タラ) 奨学金 140,000 円
- フィリピンナボタス奨学金 100,000 円
- とちぎYMCA 国際協カイベント 46,331 円
- 日本 YMCA 同盟を通して支援 131,000 円
- ウクライナ支援 29,405 円
- 送金手数料 5,000 円

*2025 年度繰越金 395,362 円

2025 年度はグローバルスタディキャンプ in フィリピンの再開に伴い、グローバルユース育成支援のため、今まで以上に皆さまにご支援が必要になります。引き続き、ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

Thanks letter + ▶

フィリピン HRCF の奨学生 2 名より、Recognition Day で成績優秀賞やスポーツ優良賞なども受賞したとの連絡が入っています。



維持会員感謝

いつもとちぎ YMCA の活動をお支え頂き、
ありがとうございます。

2024 年度のとちぎ YMCA もみなさまのおかげさまで無事に活動を修めることができました。みなさまの激励や叱咤、ご助言、お祈りなどに加えて YMCA 維持会費やご寄付など、物心ともなるお支えをいただきまして日々の活動ができましたことに、心より御礼を申し上げます。

近年とちぎ YMCA では、指定管理事業や、保育園・子ども園などの補助金事業、居場所などの各委託事業、高齢者支援の介護保険事業など、公的な財源をお預かりして行う活動が増えました。2025 年度 4 月より新たな宇都宮市指定管理事業である「宇都宮市まちづくりセンター（愛称）まちぴあ」の運営もはじまりました。一方で、ユースリーダー育成活動、子ども食堂など社会の課題と向き合う活動、新しい国際意識に立ったグローバル教育国際活動、新しいスタイルの居場所活動など財源は乏しいながらも為すべき活動の重要性も高まって参りました。

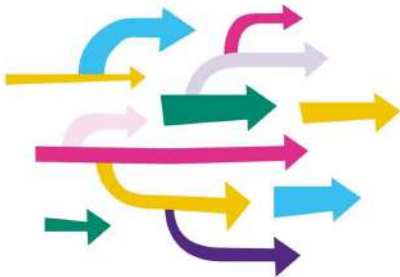
みなさまからのお支えは、このように人の育成と必要とされるチャレンジで時代を拓く YMCA の新しい活動に大切に活用させていただきます。ご支援をいただいておりますみなさまがたには、これからも YMCA と一緒にいただけますようお願いを申し上げますとともに、あらためまして心より感謝を申し上げます。いつも本当にありがとうございます。

総主事 塩澤 達俊

□2024 年度 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日) 個人 (敬称略・順不同)

加藤 福来、正木 敬子、大浦 智子、螺良 修一、橋本 寿夫、菊地 知子、中村 俊幸、十河 弘、村山 直樹、持田 二郎、高村 和夫、高橋 文代、増山 雄貴 (増山公認会計士事務所)、田巻 秀樹、伊澤 良則、布川 武男、丸山 孝、伊澤 智昭、高村 博、齋藤 仁、金田 敏雄、種ヶ島 和洋、並木 信一、福本 知恵子、江口 健司、横嶋 依里子、矢部 真人、山口 俊一、田上 中・徳子、田中 陽稀、田中 柚妃、伊藤 貴子、石川 雅之、阿久津 哲男、井口 美代子、田代 富夫、山崎 敦子、平田 和子、増山 律子、佐藤 隆久、里村 美奈、中村 新、中村 咲舞

宇都宮乳業(株) 代表取締役 福田隆男、中川 哲夫、谷津 行男、久保 孝弘、長谷 範子、川上 聖子、宮下 博行、秋田 正人、上野 順一郎、上野 すみ子、武藤 玄、富士フイルムビジュアルソリューションズ(株)、大島 清子、鷹簀 孝、鈴木 伊知郎、金澤 林子、岡田 孝司、石飛 雅代、山口 俊一、山田 公平、田村 修也、原田 明子、鈴木 保江、張 ウェリ (MATERNA WELLI)、藤生 強、村田 榮、阿久津 ユリ子、花田 瞳、渡部 静子、羽山 弘一、中澤 堅次、牧田 羊、矢部 万紗人、粕田 晴之、久家 康雄、並木 真



「ポジティブネット」 Positive Net

互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。課題の多い社会のなかで、それは、生きるためのひとつの選択肢となっていく。私たち 日本の YMCA は、グローバルなネットワーク基盤を活かしてポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ります。

感謝

◇とちぎ YMCA 創設メンバーで
“ミスター・ワイズ” 十河 弘さん 逝去

十河 弘 (そごう ひろし) さん
1935 年 香川県生まれ

1954 年 日本基督教団徳島兄弟教会にて受洗
徳島大学工学部在学中に徳島大学 YMCA 活動に参加

1957 年 富士重工業入社
宇都宮市在住

1977 年 宇都宮 YMCA (現・とちぎ YMCA) 設立メンバー
とちぎ YMCA 各法人理事
とちぎ YMCA 名誉理事
学校法人理事長などを歴任
とちぎ YMCA 会員
宇都宮ワイズメンズクラブ メンバー

長らくご病気で療養されていましたが、
去る 3 月 3 日、心不全のため享年 90 歳で永眠されました。

1977 年のとちぎ YMCA (旧・宇都宮 YMCA) 創設のほか、1993 年には YMCA として世界で初めての高齢者施設「マイホームきよはら」の建設にあたり、募金活動の先頭に立たれ、1 億円を集めるという偉業を成し遂げられました。とちぎ YMCA の今日の基盤を築かれた、かけがえのない恩人です。

そのお人柄は、エンジニアらしい明晰で合理的な思考と、大学時代から YMCA 運動に関わってこられたキリスト者としての情熱にあふれており、私たちとちぎ YMCA にとって、なくてはならない大切な先輩でした。まだまだ十河さんと語り合い、その薫陶をいただきたかったという思いでいっぱいです。

神の御許に召された十河さんに、心より感謝を申し上げますとともに、とこしえの平安をお祈りいたします。

高校生ボランティアグループ「つぼみ」
つぼみ通信 vol.19



『とちぎ YMCA での活動を振り返って』

とちぎ YMCA でのボランティア活動を通じて、私は大きく成長することができました。人間関係に悩み、孤独を感じていた当時、幼い頃に参加していた YMCA の活動を思い出し、思い切って説明会に参加しました。最初は不安でしたが、温かく迎えてくれたリーダーたちのおかげで安心することができ、活動を通して少しずつ自信を取り戻すことができました。

通信制高校に通う私にとって、同年代と関わる経験は貴重で、この居場所に出会えて本当に良かったと感じています。見た目で判断せず、誰に対しても優しく接する仲間たちの姿勢に、私もそうありたいと強く思いました。

この経験を通して、私は人との関わりに対する恐れを克服し、自分に自信が持てるようになりました。とちぎ YMCA は、ただのボランティア団体ではなく、私にとって心から安心できる「居場所」でした。人を受け入れ、支え合う温かい雰囲気の中で、私は自分自身を見つめ直し、成長することができたと実感しています。